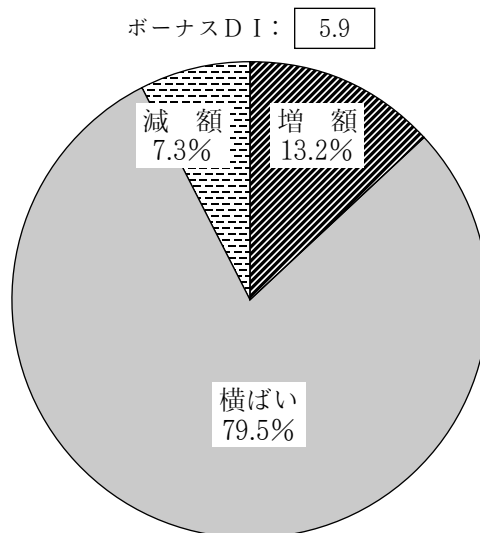


2022. **6**
No. **215**

調査レポート

2022年夏季 県内民間ボーナス支給見通し － ボーナスDIは7期ぶりのプラス －

夏季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第92回県内企業経営動向調査」から

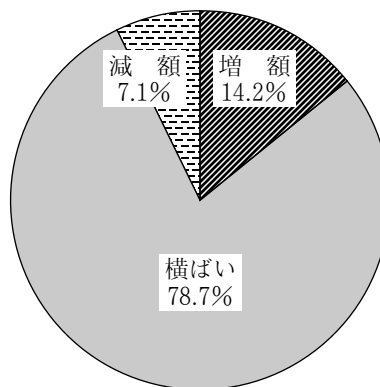
当行の第92回県内企業経営動向調査（4月上旬実施、回答企業310社）によると、今夏のボーナス支給予定額は、昨夏の支給額に対して「増額」回答先割合が13.2%（昨夏調査12.0%）、「横ばい」回答先割合が79.5%（同71.8%）、「減額」回答先割合が7.3%（同16.2%）となった。

この結果、夏季のボーナスDI（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は、5.9と昨夏（△4.2）と比べて10.1ポイント上昇し、2018年冬季以来、7期ぶりのプラス（「増額」超）となった。

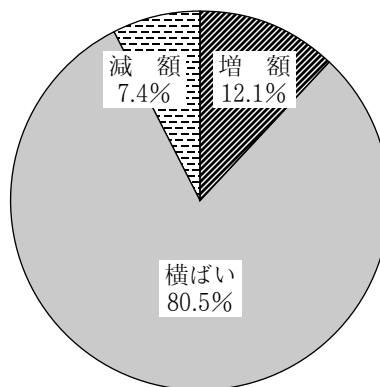
今回実施した企業経営動向調査において、2021年度下期は、受注、売上に改善の動きがみられたものの、原油・原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁しきれず、収益面では減益傾向が続いた。また、新型コロナウイルス変異株の拡大や部品・部材不足、混迷するウクライナ情勢など下押し要因もあり、景況感は悪化した。一方、2022年度上期の見通しについて、引き

夏季民間ボーナス支給見通し

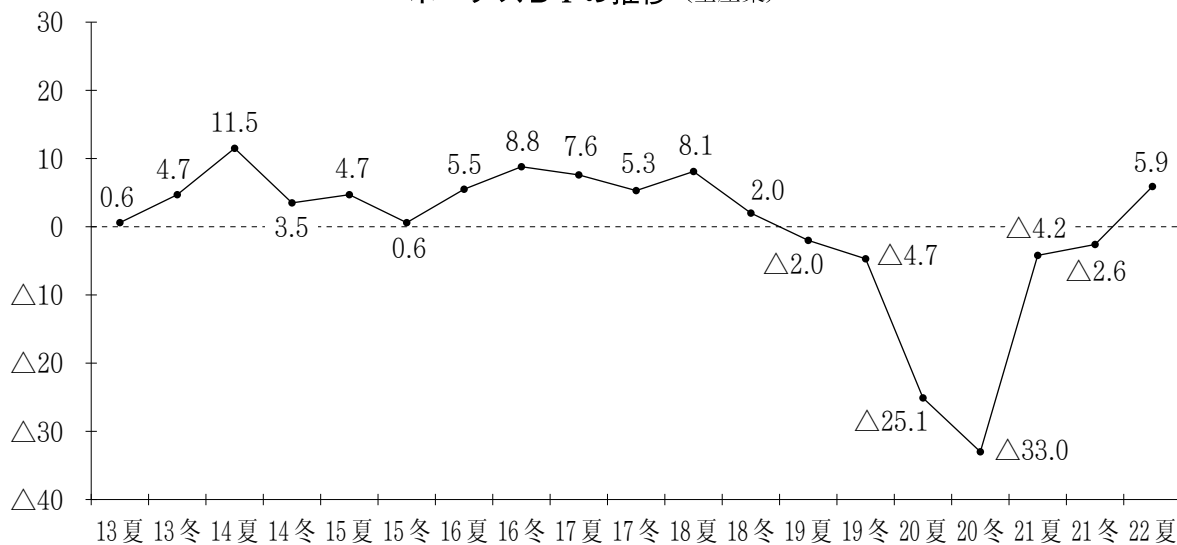
（製造業） ボーナスDI： 7.1



（非製造業） ボーナスDI： 4.7



ボーナスDIの推移（全産業）



●— ボーナスDI（注）

（注）DI =（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

続きコストの上昇が予想されるなか、収益面では厳しい見方がなされているが、ウィズコロナ/アフターコロナに向けた経済活動活発化への期待などから、業況の見通しD I（「好転」回答先割合－「悪化」回答先割合）は好転を見込んでいる。

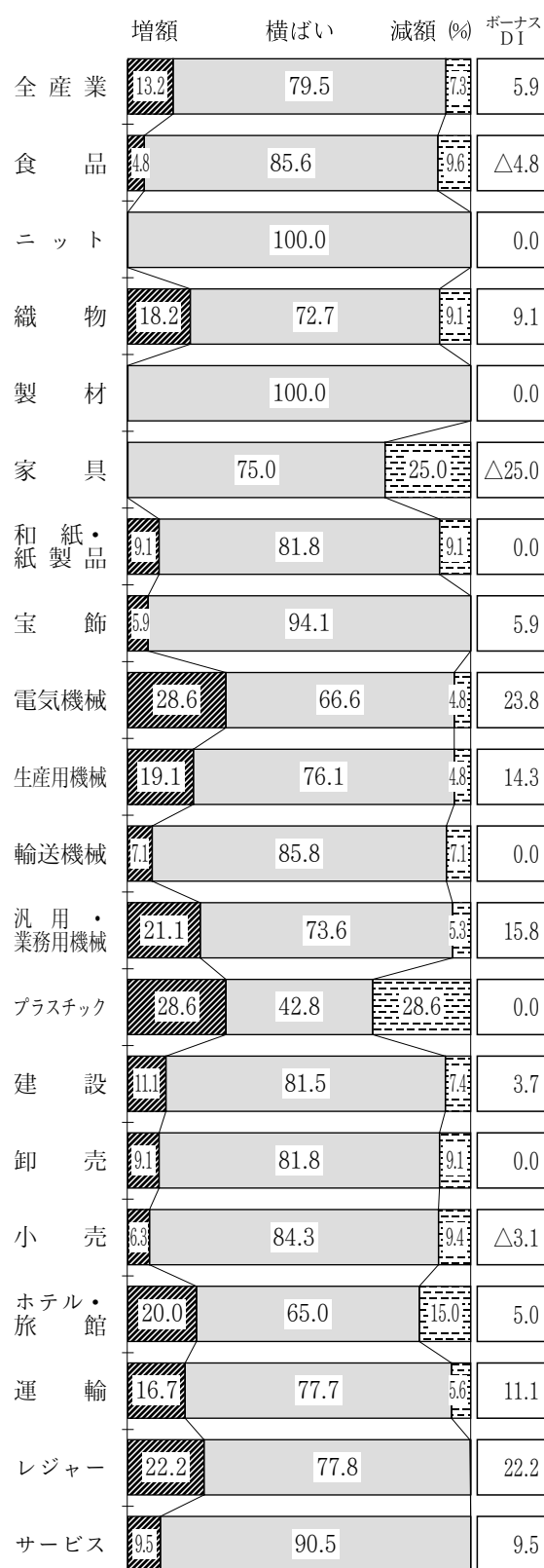
また、同調査により雇用面をみると、製造業、非製造業ともに人員の不足感が強まっており、対策として正社員の雇用を予定する先が増加するなど、雇用確保のために労働条件の改善を図る（ボーナス支給額を増額する）状況が強まりつつある。

このように、企業の景況感は悪化したものの、先行きへの期待や雇用情勢の逼迫感がボーナス支給見通しに反映され、ボーナスD Iがプラスに転じたと考えられる。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が14.2%（昨夏13.7%）、「減額」回答先割合が7.1%（同15.0%）となった。この結果、ボーナスD Iは7.1と、昨夏（△1.3）と比べて8.4ポイント上昇し、「増額」超となった。このうち機械関連では、電気、汎用・業務用、生産用の各機械は「増額」超となった。機械関連以外では、織物、宝飾が「増額」超となった一方、家具、食品は「減額」超となった。なお、ニット、製材ではすべての先が「横ばい」と回答し、和紙・紙製品、プラスチックは「増額」先と「減額」先が同数となった。

非製造業は、「増額」回答先割合が12.1%（昨夏10.3%）、「減額」回答先割合が7.4%（同17.4%）となった。この結果、ボーナスD Iは4.7と昨夏（△7.1）と比べて11.8ポイント上昇し、6期ぶりに「増額」超に転じた。小売が「減額」超となった一方、レジャー、運輸、サービス、ホテル・旅館、建設は「増額」超となった。

夏季民間ボーナスの業種別支給見通し





山梨中銀 SDGs応援ローン

当行は SDGs の目標達成のため、
お客さまの成長・地域経済の持続的発展に
積極的に取り組んでまいります。

融資対象	以下の（１）および（２）の要件をすべて満たす法人・個人事業主のお客さま （１） 当行営業エリア内において事業を営んでいる （２） 「SDGs」の趣旨に賛同するとともに、「SDGs」の17目標に対して、1項目以上の具体的な施策を実施している、または実施しようとしている
資金用途	運転資金・設備資金
融資金額	1億円以内
融資形式	手形貸付、証書貸付
融資期間	手形貸付 1年以内 証書貸付 運転資金：5年以内（据置1年以内） 設備資金：15年以内（据置1年以内）
金利条件	当行所定金利
返済方法	手形貸付：元金一括返済 証書貸付：元金均等分割返済
担保・保証人	個別の審査となります

※ 審査の結果、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

くわしくは山梨中央銀行の窓口
またはフリーダイヤルへどうぞ

ふ れ あ い ハ ロ ー に
0120-201862 照会コード
9

〈受付時間〉
月曜日～金曜日 9:00～17:00
(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)